



輝北総合支所前の交差点（輝北町上百引）

昔

昭和50年頃



今



狭い道を登校する旧百引小学校の児童。信号機は昭和50年3月に町内で初めて設置されました。左奥に見えるのは旧輝北町役場（現・輝北総合支所）の一部、右の大きな木造の建物は輝北町農業協同組合（現・JAそお鹿児島輝北支所）。のちに、いずれも改築・移転し、今では、百引郵便局（総合支所内）やAマート輝北店もあります。



昔、鹿屋で起きた出来事にクローズアップ！

カノヤタイムトラベル

鹿屋にも来た伊能忠敬測量隊

いのうただたか



大始良年寄家の一つだった川上家累代の墓地

江戸時代に初めて実測による日本地図を完成させた日本人と言え、誰もが知る伊能忠敬。今年（1818年）は、忠敬が文化15年（1818年）に74歳で亡くなつてから、ちょうど200年に当たります。忠敬が測量を開始したのは寛政12年（1800年）。なんと55歳の時でした。以降、17年もの歳月をかけ、全国を巡つたのです。

文化7年（1810年）には、鹿屋の地も踏んでいます。記録によれば、5月22日、現在の東串良町の笹塚から笠之原を経て、鹿屋の中心地まで測量。この日、忠敬一行が泊まった宿は、大隅半島唯一の酒屋で、銘酒「桜川」で名が知られた木下屋長吉の宿でした。

翌朝、一行は二手に分かれて宿を出発。先に出発したグループは、横山から田淵・大始良までを測量し、後続の忠敬らのグループは西原から横山までを測量し、夜は大始良の集会施設に泊まりました。24日以降は、横尾岳を経て、大根占、根占、佐多岬、大泊、辺塚、岸良：と、大隅半島をぐるりと回り測量。6月には柏原から陸路で再び鹿屋を訪れ、高須、古江も測量のため訪れています。

忠敬の日記には、串良年寄や大始良年寄といった地元の人々や案内人、宿の提供者など、多くの人々の名が登場します。偉業はこれらの人々の協力があつてこそ成し遂げられたと言つても過言ではありません。あなたのご先祖も、忠敬と会つていたかも知れませんね。 ※文中の月日は旧暦で表記しています。



忠敬の測量図をもとに文政10年（1827年）に作成された地図（国立国会図書館）